

2017年に「高齢者福祉セミナー IN カンボジア」を東北福祉大学とカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)が共催で実施したことが大きなきっかけになり、本格的な高齢者福祉政策が始まりました。その一環として、国家政策の『国家高齢化政策 2017-2030』がスタートし、首都プノンペンで初めて国立高齢者ケアセンターが建設されました。計画では全州に1カ所の国立高齢者ケアセンターを建設する予定になっています。首都プノンペンで初めて建設された国立高齢者ケアセンターは、カンボジア型モデルとして成功させなければならない使命があります。

この間、同窓生である北海道・江別市にある社会福祉法人北叡会理事長を務めていた天野一城氏(社会福祉学部社会福祉学科卒業)は、2018年に「アジア福祉基金」を設立して会長に就任し、カンボジアの高齢者福祉に寄与する目的でスタートいたしました。さらに2019年11月に国立高齢者ケアセンターに介護用備品などの寄贈品を届けています。また、カンボジア王国社会福祉省(MoSVY)の要請を受けて社会福祉法人北叡会から職員をプノンペンに派遣し、介護研修を実施しました。こうした卒業生のご支援の下で、国立高齢者ケアセンターの事業は開始いたしました。

しかし、天野一城氏の逝去に伴い、大学時代の親友であった赤塚は、大学の承認を経て2020年8月に社会福祉法人北叡会から本学1号館5階の赤塚研究室に事務局(委員6名:すべて本学の卒業生:社会福祉法人横谷理事長、本学教員5名・広浦先生、後藤先生、小野先生、高橋(俊)先生、赤塚)を移動いたしました。アジア福祉基金は、「東北福祉大学同窓会」の活動基金として位置づけ、大学のホームページにある同窓会ページには寄付金の呼びかけをいたしました。当初は、同窓会ページには、カンボジア初となる高齢者福祉施設・国立高齢者ケアセンターの全館に水を供給するためにタンク設置(費用:カンボジア王国社会福祉省の見積もり約800万円、その他100万円:当時の為替レート)するための寄付金を呼びかけの記述を同窓会ページに記載しましたが、予定金額の寄付金が集まらないために2025年7月25日に開催したアジア福祉基金総会においてタンク設置から高齢者用の健康運動器具(屋外設置)の設置と血圧計を寄贈することを決定いたしました。(寄付金総額:660,938円)

その後、2025年9月にカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)と検討を重ねて国立高齢者ケアセンター内に設置をすることが確定しましたが、同年、トランプ政権のアメリカ合衆国におけるカンボジア人の不法労働者の強制送還に伴い、同センターは収容施設として使用されることとなったためカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)の許可を得て、カンボジア王国宗教省の仏教研究所を通じてプノンペンにあるネックワン寺院(Wat Neak Woan)に高齢者用の健康運動器具6基が設置されました。(設置費:472,211円)また、寄贈者名「東北福祉大学同窓会」をクメール語、日本語、英語で明記した大理石の看板が設置(設置費:22,766円)され、カンボジア王国に「東北福祉大学同窓会」の名前を刻むことが実現いたしました。

なお、当初は、科研費研究調査（僧侶による介護の担い手に関する調査）協力者であるプノンペンにあるタン寺院(Wat Than)に設置予定でしたが、同寺院より健康運動器具を設置する土地がないとのご報告があったことから日本の大手電機会社から購入した血圧計 6 台(代金:53,858 円)を寄贈し、健康運動器具については上記の寺院に設置されました。なお、皆様からの寄付金からは、設置するための準備や調整をしてくださいましたプノンペン在住の手束耕治氏にコンサルト代(22,766 円)を支払い、残りの寄付金は、ネックワン寺院(Wat Neak Woan)で開催する高齢者の行事に使用することを条件に寄付(89,338 円)をいたしました。(2025 年 8 月 9 日レート:1 ドル 151.77 円)

この間、皆様から寄付金をいただいたことにあらためて感謝を申し上げます。当初の計画であったタンク設置から血圧計と高齢者用の健康運動器具の寄贈することに変更となりましたが、カンボジア王国に『東北福祉大学同窓会』の名前を永遠と刻まれたことに関係各位とアジア福祉基金の運営に関わった委員の方々には、お礼を申し上げます。こうして同窓会の会員としての絆の証がカンボジア王国に刻むことができたことは、東北福祉大学同窓会にとっても有意義な国際貢献ができたことと確信しています。いつの日かプノンペンにあるネックワン寺院(Wat Neak Woan)とタン寺院(Wat Than)をご訪問してください。必ずカンボジア人から大歓迎を受けると思います。

2026 年 3 月 23 日にアジア福祉基金総会を開催し、アジア福祉基金の解散と事務局の閉鎖が議決されました。理由として寄付金の預金口座は、2025 年 7 月 18 日に全額を引き出し、その後、口座を解約してすべての寄付金は全額寄付に使用されました。さらにはアジア福祉基金の事務局を赤塚研究室に置いてましたが、会長であった赤塚が 2026 年 3 月 31 日をもって母校を退職することからアジア福祉基金は、当日の総会でアジア福祉基金の解散が全会一致で承認されました。なお、アジア福祉基金の寄付金の使途明細については記載した収支決算書を参照してください。

同窓会 会員 赤塚 俊治
(社会福祉学部社会福祉学科卒業)